

令和7年度全国学力・学習状況調査 高浜市の結果について

令和7年度全国学力・学習状況調査における本市の結果の概要についてお知らせします。令和7年度調査も、昨年度に引き続き悉皆による本体調査です。なお、今回の結果は、学力及び学校の教育活動の一側面であり、全ての学力や生活の様子を表しているわけではありません。

1 調査の実施状況について

調査実施日（基準日）	令和7年4月17日（木）
調査内容	教科に関する調査
	国語、算数・数学、理科
	生活習慣や学習環境等に関する質問調査 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
調査対象	小学校6年、中学校3年の全児童生徒
調査状況	小学校6年：446人 中学校3年：439人

2 教科に関する調査の結果

小・中学校の各教科の学習領域で、「よくできていた領域」と「課題がある領域」を挙げ、その領域での出題の趣旨を示します。また、問題形式を次のように示します。 選択＝選択式 短答＝短答式 記述＝記述式

小学6年生の状況 国語 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の内容	問題形式	出題の趣旨
○	書くこと	選択	書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる
	我が国の言語文化に関する事項	選択	時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができる
☆	書くこと	記述	目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる
	読むこと	選択	事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握することができる

小学6年生の状況 算数 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の領域	問題形式	出題の趣旨
○	データの活用	選択	棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる
	変化と関係	選択	伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすことができる
☆	数と計算	記述	分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できる
	数と計算	短答	数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができる

小学6年生の状況 理科 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の領域	問題形式	出題の趣旨
○	「地球」を柱とする領域	短答	赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現することができる
	「エネルギー」を柱とする領域	短答	電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いている
☆	「生命」を柱とする領域	選択	顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能が身に付いている
	「生命」を柱とする領域	記述	レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができる

中学3年生の状況 国語 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の内容	問題形式	出題の趣旨
○	読むこと	選択	表現の効果について、根拠を明確にして考えることができる
	読むこと	短答	文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができる
☆	書くこと	記述	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができる
	話すこと 聞くこと	記述	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができる

中学3年生の状況 数学 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の領域	問題形式	出題の趣旨
○	データの活用	短答	必ず起こる事柄の確率について理解している
	関数	選択	事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができる
☆	数と式	記述	式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし数学的な表現を用いて説明する
	関数	記述	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる

中学3年生の状況 理科 ○：よくできていた領域 ☆：課題のある領域

状況	学習指導要領の領域	問題形式	出題の趣旨
○	「エネルギー」 を柱とする領域	選択	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いている
	「粒子」 を柱とする領域	記述	科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できる
☆	「生命」 を柱とする領域	選択	水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている
	「粒子」 を柱とする領域	短答	塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いている

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査の結果

(1) 児童質問紙の結果（小学校）

○「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が多い質問

- ・毎日、朝食を食べ、同じぐらいの時刻に就寝・起床している。
- ・自分にはよいところがあると思う。
- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・読書が好きだ。
- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した。
- ・PC・タブレットなどのICT機器を活用すると、友達と協力しながら学習を進めることができる。

☆「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた児童が少ない質問

- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談しようと思う。
- ・分からないことや詳しく知りたいことがあった時に、自分で学び方を考え、工夫することができる。
- ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。
- ・5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめていた。
- ・学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなぐことができた。

(2) 生徒質問紙の結果（中学校）

○「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒が多い質問

- ・毎日、朝食を食べ、同じぐらいの時刻に就寝・起床している。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思う。
- ・学校に行くのは楽しいと思う。
- ・友達関係に満足している。

☆「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた生徒が少ない質問

- ・将来の夢や目標を持っている。
- ・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談しようと思う。
- ・読書が好きだ。
- ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがある。

4 学力・学習状況調査の結果を受けて

<国語>

小学校「書くこと」の学習では、書く目的や意図を明確にした上で、効果的な書き表し方を考える学習活動を取り入れたい。活動中は、一人一人の学習状況を捉え、できていることを認め、つまづきについての確に指導する。また、友達同士で文章を見せ合って話し合ったり、教師が価値付けたり、詳しく書き表す方法等について学級全体で考えたりする中で、自分の文章のよさを生かし、書きたいことに合う方法を見つけられるように指導する。

中学校「書くこと」の学習では、自分の意見とそれを支える根拠を明確にして書く学習活動を取り入れたい。根拠を明確にするために、自分の考えが確かな事実や事柄に基づいたものであるかを確かめさせる時間を確保し、ていねいに指導する。また、接続する語句や指示する語句を用いるなどして、伝えたい事柄とその根拠を適切に結び付けたり、事実や事柄を具体的に示したりして書くように指導する。

<算数・数学>

小学校「数と計算」の学習では、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、小数や分数の計算の仕方について、統合的・発展的に考えられる学習活動を取り入れたい。例えば、 $300+200$ などの大きな数の加法については、共通する単位である100の幾つ分とみることで、簡単な整数の加法と同様に考えられることを振り返ってから少数や分数の加法について考えさせていく。小数の加法については、0.1や0.01の幾つ分という見方によって、整数の加法と同様に考えられると気付くように指導する。また、同分母の分数の加法については、分数を単位分数の幾つ分とみることで、整数の加法と同様に考えられること、異分母の分数の加法については、分母を通分することで共通する単位を見だし、単位分数の幾つ分とみることで、整数の加法と同様に考えられることに気付くように指導する。

中学校「数と式」の学習では、式の各部分が何を表しているかを言葉で説明する学習活動を取り入れ、式の構造を分解して理解する力を育てる。具体的な数値を代入して確かめる活動や、図や数直線を用いた視覚的な支援を活用することで、式の意味を捉える力と論理的な説明力を高められるように指導する。

<理科>

小学校では、観察や実験で扱う器具や機器の操作方法や手順を覚えるだけでなく、ていねいに一つ一つの動作の意味を理解させることが大切である。例えば、「生命を柱とする領域」では、さまざまな状態を想定したり、観察する対象物を複数にしたりして、実際に器具や機器を操作する機会を増やすことで、観察や実験で扱う器具や機器を正しく操作することができるよう指導する。

中学校では、学習で得た知識を概念として身に付けることが大切である。例えば、「生命を柱とする領域」では、観察した複数の生物の共通点や差異を挙げ、生命を維持する呼吸の知識とを関連付けて考察する場面を設定し、学級全体やグループ活動を通して、生物の特徴を多面的に考えられるように指導する。

<生活>

各校において、高浜市教育基本構想の取組の一つである高浜カリキュラムや異校種連携事業を通して、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を進め、生きる力を育む質の高い教育活動を実施していく。また、個別支援の充実に向けた取組を推進し、一人一人を大切にしたいきめ細やかな教育活動を実施していく。これらの教育活動を充実させ、「高浜市の人・もの・こと」と関わり合う機会を保障することで、子どもたちの「なりたいたい自分に向かって学ぶ力」を育てていく。